

平戸

平成30年11月30日
横浜市立平戸小学校
〒244-0803
横浜市戸塚区平戸町542番地
TEL045-821-2329

「ひとり」になって考えること

校長 菅原 久忠

夏にさかのぼりますが、宗教学者、山折哲雄さんの「いま、こころを育むとは」という著書を読みました。その中で山折さんは最近の若者の「ひとり嫌いの時代がとても気になる」、「今はひとりが不安で、ひとり静かに考えることをしない傾向がある」と言っています。確かに、絶え間ない私語や携帯等を常に操作する姿、極端なグループ化などは、常に群れていないと安心できない心のありようを表しているようにも思えます。私も担任をしていた頃から、そうした傾向が気になっていたのでこの文章が目にとまりました。この著書を手にする1か月前の朝会で、子どもたちに次のような話をしました。

「以前、ある小学校から10周年記念誌が送られてきましたが、その中に卒業生が次のような文章をかいていました。『先生方にいろいろ教えていただいて、勉強のことはよく分かって、心のことはどうしても耳に入りませんでした。恥ずかしい話ですが、私は6年生になるまでは、“自分以外はだれも傷つけない”というように思っていたようです。理屈では相手も傷つくし、泣きもするということは分かっていたのですが、心のことは分かっていたいかなかったのです。ところが6年生でよい友達に巡り合い、まわりを見つめて相手も傷つき痛むということが分かったのです。そして、人を傷つけたことを深く後悔しました。それは苦しいものでした。でもやっと自分のまわりには心がいっぱいあるということ学んだのです。』と。

この子は、自分中心の考えから抜け出たのです。だれでも、人は喜んだり悲しんだりするということは頭の中では分かっています。でも自分のことでないと身に染みては分からないものです。だから、相手の心を傷つけて平気でいられるのです。

こんな詩をかいた子がいます。

この詩の中の「オエッ。」と言った人は、ほんの冗談のつもりで言ったのでしょう。明るい冗談は、みんなを楽しくしてくれるものです。でも、作者は、この一言で大変傷ついています。家に帰ってようやく顔を洗い「やだなあ。この顔。」と自己嫌悪に陥っています。前に「きゅうり」って言われたりして、普段から気にしていたことを言われたから、こんなに傷ついたのです。ところがこれを言った人は、「やめなよ。」と言われたことぐらいで相手がそんなに傷ついたとは知りません。だから、また、作者の顔のことを言って苦しめるかもしれません。こういうことはあつてはなりません、意外と身近で起こっています。

「心ない」という言葉があります。「思いやりのない」とか「深く考えることができない」という意味です。心ない人にはなりたくありません。私たちのまわりには傷つきやすい心がいっぱいあることを知って、互いに声を掛け合って、みんなが楽しく安心して生活できるようにしたいものです。」

「心ない」という言葉があります。「思いやりのない」とか「深く考えることができない」という意味です。心ない人にはなりたくありません。私たちのまわりには傷つきやすい心がいっぱいあることを知って、互いに声を掛け合って、みんなが楽しく安心して生活できるようにしたいものです。」

本来人間は「ひとり」になって初めてものを考える基盤ができ、ひとりであることに自信がもてたときに初めて他人を思いやることができると山折さんは言っていますが、共感するところがあります。簡単ではありませんが、自分に自信がもてれば、友達の大切さも適切な関係も分かるようになってくるとも言えます。「ひとり」で立つことのできる教育は、どうしたらよいのか今後も考えていきたいです。

12月の第1週は「人権週間」とし、普段、様々な場面で考えている「自他を大切にすること」のことを、改めて振り返りながら学習を深めていきます。

顔
ぞうきんを洗いに洗面所へきた。
洗いながら後ろを向いた。
ぬうっと顔が出た。
「オエッ。」
私の顔を見て言った。
「やめなよ。」
前にも言われたな。
「きゅうり」って。
同じ6年生にまで言われるなんて。
家に帰ってようやく顔を洗った。
「やだなあ、この顔。」
かがみを見ながら言った。